鎌倉・室町・安土桃山時代
矢沢周辺マップ

花崎は花咲でもあり、源義経も高館に滞在したころ、この辺りに花見にきたそうです。1190 年頃、源義経の家来が花崎甚左衛門と名乗り、この地に館を構えました。

青龍寺に隣接する千葉八幡宮は、源義経の家来である千葉氏がこの地に逃れ、傷が深いので自害し、後に祀られたという説があります。

鎌倉時代はこの地を工藤三郎兵衛尉が治めていました。1334 年建武の新政時に南部師行が進軍し、根城を築城しました。

鎌倉幕府初代執権北条時政の孫である朝直は大仏（おさらぎ）流の祖です。鎌倉大仏の近くに住んでいたため、大仏姓を名乗ったようです。第 11 代執権宗宣の子、北条（大仏）維貞は 1314 年に陸奥守、1327 年に修理大夫（京の内裏の修理造営を掌る長官）に任じられました。現在大仏神社のある尻内城は大仏修理守が治め、この辺りも大仏と呼ばれるようになったと言われますが、実際に居住していたのは配下である一戸領主工藤四郎左衛門の子、工藤左衛門次郎でした。

1334 年、鎌倉幕府が滅んで後醍醐天皇による建武の新政が始まると、北条氏の残党を追って北畠顕家・南部師行の軍が進軍してきました。そこで、工藤左衛門次郎は津軽の方へ逃亡しました。

大佛館は櫛引氏の支配下にありましたが、1571 年に根城南部氏の領土となり、中館宮内少輔政直は配されました。

櫛引氏は南部氏の庶流です。櫛引村や大佛村、矢沢村を支配していた櫛引弥六郎は 1567 年に東政勝と共に根城南部を攻撃しましたが、1571 年に敗れ、尻内一帯は根城南部の支配下に入りました。櫛引弥六郎の子、清政と清長は 1591 年の九戸政実の乱で九戸方につき、豊臣秀吉・三戸南部氏の軍と戦いましたが敗れました。

由緒ある櫛引八幡宮の別当はその後も櫛引氏に任され、清政の孫である櫛引政次は盛岡藩に召しかかえられています。

1567 年、根城南部の八戸政栄は実父の死去の際に新田城に赴き、その留守に櫛引氏、東氏が攻撃して周辺に火を放ちました。根城の城が落ちることはなく、逆に 1571 年には勝利して尻内一帯を支配下に入れました。

『櫛引八幡縁起』には、櫛引村に 806～810 年に坂上田村麻呂が祀った八幡宮の小社があり、後の時代になってこの地に遷座したとあります。

名久井城

名久井城を治めていた東氏は南部氏の庶流です。東政勝は正法寺、張田、洞、熊ノ沢も支配していて、1567 年に櫛引弥六郎と共に根城南部を攻撃しましたが、1571 年に敗れました。1591 年の九戸政実の乱では、九戸方について豊臣軍に敗れました。

作成：馬渡康紀

参考：松橋金蔵氏ノート、角川書店地名辞典、
三条小 100 周年記念誌、馬超波氏修士論文、
Wikipedia、各インターネットサイトなど。